

会 議 録

会議名	令和6年度 第1回丸亀市自治推進委員会
開催日時	令和6年7月31日(水) 18:30~20:15
開催場所	丸亀市役所 特別会議室
出席者	<p>出席委員 鹿子嶋仁、池永文彦、垣渕直子、秋山ともえ、岩崎正朔、高尾光一、高木明美、前田誠、和泉敏之、岩根綾香、新野智雪、豊岡士</p> <p>欠席委員 関泰子、門祐介</p> <p>事務局 協働推進部長 田中壽紀 (協働推進部地域づくり課) 課長 吉田比夫美、副課長 野本あゆみ 協働担当長 直江麻紀、主事 高畠のどか</p> <p>市出席者 市長公室政策課課長 真鍋裕章</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和5年度分野別事業一覧の報告について 2. 丸亀市市民交流活動センターマルタスの運営について 3. 第2次丸亀市協働推進計画に関する取り組みについて 4. 丸亀市eモニター制度について
傍聴者	0名
発言者	議事の概要及び発言の要旨
吉田課長	<p>ただ今から、令和6年度第1回丸亀市自治推進委員会を開会いたします。本日はご多忙の中、出席いただきまして誠にありがとうございます。それでは、議事に入ります前に資料の確認をお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">＜資料確認＞</p> <p>最初に、令和6年の機構改革によりまして、自治推進委員会の事務局が従来の市長公室秘書政策課から、協働推進部地域づくり課に変更になっております。変更後初めての自治推進委員会になりますので、事務局及び市の出席職員の紹介をさせていただけたらと存じます。</p> <p style="text-align: center;">＜職員の紹介＞</p> <p>以上の6名で本日は対応させていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。本日の会議につきましては、前回と同じく議事録作成支援システムを使用し、会議を記録いたしますので、発言される際にはお手数ですがお手元のハンドマイクを使用して発言していただくようお願いします。ここからは、丸亀市附属機関設置条例第7条に基づきまして、鹿子嶋会長に議事進行をお願いいたします。</p>
鹿子嶋会長	<p>本日の会議ですが、現在、委員総数14名のうち12名のご出席をいただいておりますので、丸亀市附属機関設置条例に基づき、会議が有効に成立していることをご報告いたします。</p>

鹿子嶋会長	<p>それでは1つ目の議事に入ります。「令和5年度分野別事業一覧の報告書について」、事務局より説明をお願いいたします。</p>
野本副課長	<p>＜資料1～2に基づき説明＞</p>
鹿子嶋会長	<p>ご説明ありがとうございました。何かご意見やご質問等ありましたらお願いします。</p>
前田委員	<p>「初日の出を迎える会」の事業が、スポーツの振興の分野に振り分けられているのがしっくりこないため、その判断基準が気になりました。</p>
吉田課長	<p>こちらは健康スポーツという概念からで、もともと一部のコミュニティでも行っていたのですが、元旦にお城で初日の出を見るために天守まで歩いて上がっていただくことで健康増進を図る趣旨で始めたものです。市民の方によって、とらえ方はそれぞれ違うとは思いますが、そのような趣旨でスタートしたものでございます。</p>
前田委員	<p>私が小さい頃、まだ協働という言葉聞いていなかった頃からの活動が続いていて、そのまま協働に巻き込まれている感が、この資料を見るとあります。例えば少年育成センターが行う事業の、丸亀市少年を守る会について、丸亀市は会長や理事を、年度ごとに輪番で各学校の保護者から決めており、この保護者はPTA組織関係者が多いのですが、丸亀市のPTA組織はまだ強制加入の学校が多いと思います。進んで協働活動に参加というよりは、若干巻き込まれているようなイメージがあります。強制であっても、協働に参加するきっかけづくりを、というところていくと協働活動なのかもしれないですが、みんなが理解してその協働に関わっているのかな、という気がしました。これは意見です。</p>
鹿子嶋会長	<p>資料1の評価方法について教えていただけますか。</p>
野本副課長	<p>協働事業担当課の自己評価で「協働事業における目的の達成」や「効果」、あと「役割分担」の3つの評価項目において、それぞれ4段階で評価をしました。その4段階の評価を数値化し、その合計点でA～Cの評価にいたしました。全体的に見て、令和5年度分につきましては、前年度よりもA評価が多く、全体として協働事業がうまくいっているのではないかと考えております。</p>
鹿子嶋会長	<p>この評価はあくまでも自己評価ですから、例えばいくつかの事業をピックアップしていろんな方向から振り返りを行うことも大切かと思えます。また、評価がBだった事業について、どういう点が課題なのか等の協議はされているのでしょうか。</p>

野本副課長	<p>令和5年度分でB評価をつけた課につきましては、次年度に向けて、事業の振り返りとして改善点について聞きました。全体的に多かったのは、目的の達成に向けて情報交換や共有を行っていくとか、もっと役割分担を明確にして協力しながら行う、といった意見がありました。</p>
秋山委員	<p>事業が上手くできてA評価が多いのはいいと思うのですが、うまくできている中で、協働のパートナーが1つの団体である事業が多く、うまくできて軌道がのっているところに、もっとパートナーをふやす、地域住民等が関わっていないところに、例えばコミュニティとかを巻き込んでいくという工夫を、今後していくと、みんなが参加した協働となるのではないかと思います。</p>
高木副会長	<p>評価のところですが、担当課に改善点を求めると同時に、協働なので、相手方に対するフィードバックも必要かと思います。担当課がこういうことが改善点で、ちょっと困っているとか、こうしたいという思いは、相手方の市民団体やコミュニティ等も共有して、課題を、プラス面マイナス面含めて、お互いに共有することが大事ではないかなと思います。</p>
野本副課長	<p>ありがとうございます。相手方が複数ある事業も多数あるため、そのすべてに振り返りを求めることがなかなか難しいところがあるのですが、先ほど鹿子嶋会長がおっしゃったような、何事業かをピックアップして振り返るところも参考に、次の年度で検討したいと思います。</p>
前田委員	<p>地域コミュニティの活性化、自治会の加入推進ですが、丸亀市の新規の分譲地の住人に確認すると、ごみの収集場所は既にあり自治会に加入する必要がないという話がありました。分譲地が増えるほど勝手に加入率が減り、高齢の加入者が亡くなるとひたすら減っていくので、この促進がずっとBになるため、Aにするための策を考えないといけないと思います。今の状況では、自治会の加入促進という議題自体が難しいと個人的には思いますが、その辺りは何かありますか。</p>
吉田課長	<p>自治会の加入促進は近年全国的に問題になっているところで、新規分譲地については市の他の管理担当課になりますが、開発許可の説明の際に、自治会の設立を呼びかけております。ただ、自治会は皆さんご存じの通り強制ではなく任意の団体ですので、自主的にそれを作っていただけたところについては、加入や設立について丁寧にご説明をさせていただいているところです。また、加入促進については、地域づくり課が担当課になりますので、自治会加入推進員を通じて、現地に出向いて行って推進を行っております。</p> <p>いずれにしても、ごみの収集については、自治会の加入未加入に関わらず、市が行政サービスとして収集をしなければなりませんので、自治会の加入とごみの収集を結びつけることはなかなか難しいところです。自治会の重要性を防災や</p>

鹿子嶋会長	<p>福祉の観点においても、丁寧に説明をしながら取り組み、B評価につきましても改善に向けて取り組んで参りたいと思っております。</p>
直江担当長	<p>それでは二つ目の議事に移ります。「丸亀市市民交流活動センターマルタスの運営について」でございます。 これも資料に基づいて担当課の方からご説明お願いいたします。</p>
鹿子嶋会長	<p><資料3に基づき説明></p>
和泉委員	<p>ありがとうございました。今のご説明につきまして、何かご質問ご意見等ございましたらお願いします。</p>
鹿子嶋会長	<p>連携の観点からいって、商店街の方々と連携をさらに深めて市民活動に参加されている商店街の方々を巻き込んで、商売の知恵をいただいたり、また商店街の方々は、跡継ぎが不足しがちだという問題も抱えていると思うので、その辺も相互作用によって協力体制ができればと思います。</p>
高木副会長	<p>商店街を巻き込んだ地域活性化は、これまでも幾つか実施されてきて、評価はいろいろあるかもしれませんが、今ご意見いただいたのはこういった商店街との連携、マルタスと絡めて何かできないかといったご意見だと思います。</p> <p>企業との連携で言いますと、資料6Pの「丸亀大文化祭」、これの何がいいかという、地元企業がかなりサポートに入っていて、地元こんな企業があるのだと知れば、将来丸亀で定住や生活をしていこうと考えます。残念ながら、これも先ほどの自治会の加入率と同じように、何かやると途端にすごい結果が出るものではなくて、成果がすぐには表れない事業です。ただ今回の大文化祭のような形で、若いうちから学生の皆さんに知ってもらうことがとても重要なので、ぜひ学生さんたちに、地元を知ってもらう機会を、このような形で増やしていただくことは、大変いいかなと思います。その中に例えば今ご提案のあった、商店街とか、そういう団体もあってもいいと感じました。</p>
直江担当長	<p>2ページの支援カウンターでの相談内容のところ、4つめの「運営に関する相談」の71件の運営に関する悩みの中身の具体的なことが、丸亀市の市民団体が運営を続けていく上での課題や傾向になると思います。相談の具体的な内容や、ご支援にあたっての方向性みたいなものは何かありますか。</p> <p>運営に関する相談内容としては法人化したいという相談や、情報発信に関すること、あとは資金繰りや人材確保に関する内容があると聞いております。</p> <p>マルタスではこういった点に着目し、講座などを企画しており、マルタスでは対応が難しい、例えばNPO会計の相談等でしたら、新たなところに繋いで、より専門的な相談ができるような取り組みも行っております。</p>

鹿子嶋会長	<p>運営に関する相談の内容で、大体の傾向ということで、何かデータとして出るのであれば、こういう相談が多いとか分かればいいかなと思うので、もし可能でしたら検討してみてください。</p>
前田委員	<p>昨年からの話の中で何回か出てきた情報発信ですが、実際にそういう情報発信についての相談件数はお持ちでしょうか。</p>
直江担当長	<p>情報発信に関する相談件数は、把握しておりません。</p>
前田委員	<p>情報発信が苦手というか、ホームページを持たない団体が、行政に近いところの団体でもいくつかあります。ホームページがあっても、活動の情報が最低限で細かいことが載っておらず、何をしているのかよくわからない状態です。子供が参加するイベントには親がついて来て、他の団体や活動を知る機会になります。マルタスで複数の団体を絡めたイベントとか、そういう提案みたいなのは何かあったり議論されたことはありますか。</p>
直江担当長	<p>マルタスを活用していただいている団体は、大変広い分野で大勢いらっしゃいます。活動者が横の繋がりを持つことを目指して、月1回の市民活動交流会や、開館3周年のマルタスフェスティバルを、普段なかなかお会いできない方と繋がる1つのツールとして開催いたしました。マルタスが具体的に、団体同士をコーディネートするということも大切ですが、できるだけ多くの皆さんが交流できる環境を整えていくところも重要と考えております。</p>
鹿子嶋会長	<p>行政が連携している団体活動に関しては、あらゆる団体が自由な情報発信をすることは、なかなか難しいと思いますが、もうちょっと柔軟に自主的な情報発信ができるように行政がサポートすること、その辺りは庁内でも少し検討していただければと思います。</p> <p>それでは続きまして、3番目の議事の「第二次丸亀市協働推進計画に関する取り組みについて」でございます。資料に基づいて担当課からご説明をお願いいたします。</p>
直江担当長	<p style="text-align: center;">＜資料4・5に基づき説明＞</p>
前田委員	<p>地域活動支援活動に対する支援の充実で、1階に展示するのはいいとは思いますが、これこそSNSやネット環境での情報発信が大事ではないかと思えます。ホームページを持ってないコミュニティセンターもあります。ホームページを持たないところについては、マルタスのSNSで載せる仕組みだったり、そのホームページを作る支援みたいなものも、地域活動の支援の中で必要ではないかな</p>

鹿子嶋会長	<p>と思いました。</p> <p>今回ご紹介いただいたものは、マルタスのスタッフの方がコミュニティに、取材された内容で、情報取得から作成、情報発信まで、結構大変ですよ。自力で発信できるコミュニティは、自動的にSNSやネットで情報発信されていると思いますので、逆にそういったスキルがないコミュニティで、何かうまいサポートの方法がないかということをちょっと検討していただくと本当にありがたいと思います。団体で、知らない名前だったりするとまずはどういう団体かを最近皆さんネットで調べますが、一応ネットで調べて情報が出てきたら、こういう団体だと安心できて、団体の認定の信頼性にも繋がります。どういう支援があり得るかを、さらに検討していただければと思います。</p>
池永委員	<p>最近、もう電子媒体だけでいいのではないかという話や、全国的にも紙の広報紙を廃止するという自治体も増える傾向があると聞きます。ただ、アンケートなど取ると、やはり紙の広報紙は重要な情報源であるということで、根強い指示もあります。紙媒体は配達にかかるコストの問題もある中で、例えばみんなが集まる場所、コンビニでもスーパーでもいいし、皆さんがアクセスしやすい場所に置くことも一案だと思います。</p>
秋山委員	<p>商工会議所女性会です。今回出前講座でお話をいただいて、まず協働ということを知り、事業所において自分たちが関わることではないかと考えている段階です。これからは協働を頭に置きながら、経営や活動をする中で、何か役に立てる自分たちの強みやノウハウが生かせるようになればと思います。具体的な立ち上がり方等も説明していただき大変よかったですと思います。他のところへも出向いて行かれたらいいなと思いました。</p>
垣渕委員	<p>この1番の施策の方向性の「市職員の意識醸成とマルタスの活用促進」のところでは、特に5月と11月に研修をされるということだったのですが、結構な人数の方が参加されたということでしょうか。</p>
直江担当長	<p>5月に行った研修は職員研修で、各課に配置しております協働推進員と各コミュニティに配置しております地域担当職員を対象に65名が参加しました。市職員の全体的な底上げをねらうという意味で、協働の基礎から学ぶ講座を行い、今後も定期的を開催したいと考えております。</p> <p>11月につきましては、職員だけでなく、市民の方など広く参加できるような講演会を予定しております。この詳細については詰めているところですので、またホームページなども通じて発信していきたいと考えております。</p>
鹿子嶋会長	<p>それでは最後の議事、4番目ですね「丸亀市eモニター制度について」。</p>
真鍋課長	<p>担当課からご説明お願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">＜資料6に基づき説明＞</p>

鹿子嶋会長	<p>今後登録者数を伸ばすためには、登録してアンケートに回答した場合に何か、メリットとかありましたか。</p>
真鍋課長	<p>この1年間の任期中に実施するアンケートの5割以上、回答していただいた方を対象にクオカードペイで500円分進呈というような特典をつけさせていただいております。</p>
鹿子嶋会長	<p>なるほど。目標500人以上ですね。どうですか。学生委員から何か。</p>
岩根委員	<p>個人的な意見ですけど、例えば学生には企業やイベントの情報、マルタスの情報なども一緒に発信したら、今後参加していただけることに繋がっていくのではないかなと思いました。</p>
池永委員	<p>アンケートを実施する場合に多いのですが、アンケートの分量が適正なのかどうか、あまり多すぎると負担になることが考えられます。市民を対象にということであれば書いていることや、専門用語が分からない、とかあるのではないかと思います。</p>
鹿子嶋会長	<p>ほかに何かご意見はありませんか。それでは本日は終了させていただきます。お疲れ様でした。</p>
吉田課長	<p>鹿子嶋会長、本日はどうもありがとうございました。 次回の開催につきましては、令和7年の2月を予定しておりますので、皆様また詳細は決まりましたらご案内させていただきます。 また本日長時間ご審議いただきましてどうもありがとうございました。第1回丸亀市自治推進委員会は、これで終了させていただきます。 本日はどうもありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">(会議終了)</p>